

2020年度 第3回生物多様性の保全に向けたネットワーク会議 (なにわ ECO スクエア) 開催報告

日時：2021年2月19日（金）10～12時
参加者：参加者42名

参加者提案意見（第2回）「大阪市の施設を利用した新しい取り組み」事務局より発表

- ① 生き生き地球館本館から続く、なにわECOスクエアでの生物多様性啓発活動の一層の強化
- ② 大阪市、大阪府の公園施設に「自然と触れ合える環境」を用意し、知るや学ぶのアクションの前に、日常で「見る、触れる」の意識化
- ③ 大阪市施設の有効活用

第3回テーマ提起「生物多様性の恵みを感じるまち大阪2050に向けて」大阪府立大学 平井規央教授



大阪で企業が取り組んだ生物多様性向上の事例として、門真市（パナソニック）、豊中市（パナホーム）、枚方市（小松製作所）、大阪市（積水ハウス）、岬町（南海電鉄）で創出されたビオトープの様子や確認された昆虫類について、写真とともにご紹介いただいた。

ゲンジボタルが見られた岬町の「多奈川ビオトープ」周辺では、田んぼの放棄が進んでいるという参加者からの情報に、高齢化で作業が行き届かなくなったようで心配ですと平井教授が返すなど、チャットで活発な情報交換がされた。

まちなかで恵みを感じられる場づくりの発展

第3回は「まちなかで恵みを感じられる場づくりの発展」をテーマに、大阪市内で生物多様性の恵みを感じられる場づくりをしている、大阪ガス、南海電鉄、積水ハウスの企業3社より事例紹介をいただいた。

各社の取り組みである大阪ガス実験集合住宅NEXT21（天王寺区）、なんばパークス（浪速区）、新・里山（北区）での生物の状況と地域参加の取り組み紹介に対し、会議の参加者から出された「植物導入時の環境配慮」「確認された昆虫の出所」など具体的な場づくりの手法への質問に詳細な情報提供がされた。さらに参加者からの「企業敷地などでの生物多様性の向上を促すアプローチの仕方」についての質問には「『生物の多様な場所にしたい』と思う地域住民の声を届けることが大切」「生物多様性保全と大段に構えるのではなく、例えば『恵みを感じられる場にすることが職場の知的生産性を上げる』と経営層に働きかけるなど視点を変えた方が良い」と演者が答えるなど、有用な情報共有の場となった。

新しい活動や連携の提案（参加者）

会議終了後のアンケートという形で参加者より「生物多様性の恵みを感じるまち大阪2050に向けて」の提案を募集、結果について第4回会議冒頭で発表予定。

参加団体：天王寺動物園、大阪市エコボランティア、公益財団法人都市緑化機構、大阪自然環境保全協会、大阪市立環境科学研究センター、日本ビオトープ管理士会京奈和支部、株式会社地域環境計画 大阪支社、なにわエコ会議、大阪環境カウンセラー協会、大和ハウス工業、オリックス不動産株式会社、NPO共生の森、NACS-J自然観察指導員大阪連絡会、(株)CCCメディアハウス、南海電気鉄道株式会社、ケイゾクエナジー、大阪府立大学、生態計画研究所

生物多様性に配慮した居住地域づくり(大阪ガス 楠井祐子)



ビル街における日常の自然の創出(南海電鉄 大西徳幸)



都心における新・里山づくり(積水ハウス 佐々木正顕)

